

【2018年10月20日～2018年10月26日までの推移】

【1】先週の回顧

先週のトルコ・リラ相場は対米ドル・対円ともに上昇しました。トルコの2年国債金利は低下しました。

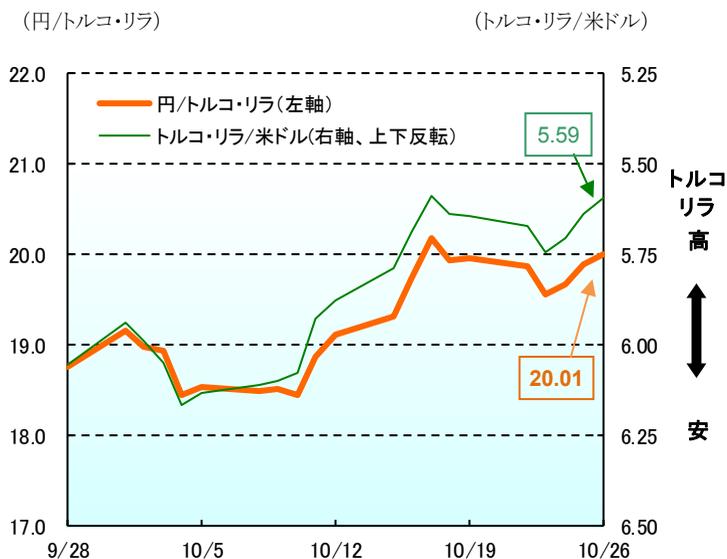
週前半は、トルコのサウジアラビア総領事館で著名記者が殺害された事件の捜査について、エルドアン大統領が積極的に情報発信をしました。25日（現地）の金融政策決定会合では事前の市場予想通り政策金利が24.00%で据え置かれ、市場の反応は限定的でした。トルコ・リラは下値不安の後退から買われ、対米ドル・対円ともに上昇しました。国債金利はインフレ率鈍化への期待から低下しました。

【2】今週の見通し

今週は貿易収支や外国人観光客数といった経済指標が発表される予定です。また、米国では重要な経済指標の発表を控えており、そちらに注目が集まりそうです。

トルコ中央銀行は金融政策決定会合後の声明文で、経済のリバランスが進んでおり、外需が引き続き強い一方で内需が鈍化しているとの見方を示しました。また政府は先日、企業に対して価格引き下げを要請したほか、エネルギーや一部の食料品の統制価格を2018年末まで据え置く可能性を示しました。目先はインフレ率や、景気の鈍化を受けた政府の政策動向などに注目しています。

【トルコ・リラ 為替推移】（2018年9月28日～2018年10月26日）



※四捨五入の関係で数値とグラフの目盛りが一致しない場合があります。

【トルコ 金利推移】（2018年9月28日～2018年10月26日）



(出所:ブルームバーグより大和投資信託作成)

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。■当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはあくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。

販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00～17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>